



徳島大学病院 形成外科・美容外科

峯田一秀助教



で発生します。上唇と上あごの形は、胎生4〜12週までに作られますが、その時期に何らかの原因

して起こると考えられています。口唇口蓋裂を持つて生まれたお子さんの治療は、生後から20歳前後まで続きます。徳島大学病院では、これまでも20年以上に渡り、口唇口蓋裂の治療のために多分野の専門スタッフが連携する診療体制を整えてきましたが、さらに充実した医療サービスを提供するために、2019年4月に四国初の

引きやパンフレットを作製したり、定期的な勉強会と症例カンファレンスを関連スタッフ全員対象に開催したりするように、より密な連携が取れるようになりました。

例えば、産婦人科で出生前に口唇裂と診断された場合は、ご家族にあらかじめカウンセリングを受けていただくことで、さまざまな不安を少しでも和らげ、出産後の治療がスムーズにいくように努めています。また、県内遠方や県外からの患

者さんに備えて、各診療科の外來受診口を調整してできる限りご家族の負担を少なくするようにしています。

当センターでは、これまで以上に口唇口蓋裂の患者さんとご家族の心のケアを行うとともに、口唇口蓋裂の包括的な診断・治療を実施し、その改善のために全力を尽くしていきます。

四国初の口唇口蓋裂センター

口唇口蓋裂とは、上唇と上あごに生まれつき裂け目がある状態をいい、日本人の赤ちゃんのうち500〜600人に1人の割合

で発育が停止すると口唇口蓋裂や顎裂（歯茎の裂け目）が出現します。原因としては、遺伝的な要因と環境的な要因が複雑に影響

口唇口蓋裂センターを設立しました（概要図）。

センター化によって、ご家族向けに分かりやすい内容の治療の手

